



祖父江ぎんなん
平成21年度に地域団体商標を取得した「祖父江ぎんなん」は、日本有数の生産量と知名度を誇り、一流料亭でも

この実を収穫調整して出荷することから、祖父江のぎんなんは「屋敷ぎんなん」と呼ばれています。
ぎんなん生産を目的とした栽培は祖父江町が最も古いと言われていますが、その歴史は意外と新しく、100年ほど前からです。当時、収穫したぎんなんが高値で売れ、大粒種の穂木が広まり、集落全体に普及しました。久寿、栄神、金兵衛の3種類は、祖父江町で生まれ今でも原木が残っています。

イチヨウの普及
伊吹山から吹く乾燥した冷たい風「伊吹おろし」から家屋を守るため、古くから祖父江町では、燃えにくい特徴を持つイチヨウを防風林として寺社仏閣や屋敷周りに植えていきました。現在では、1万本を超えるイチヨウの木が点在しています。
絶賛され、さまざまな料理に用いられています。また、毎年「そぶえイチヨウ黄葉まつり」を開催し、令和2年度には愛知県から「祖父江ぎんなん街道」として認定されるなど、ブランド強化に向けた取り組みが行われています。

そぶえイチヨウ黄葉まつり 中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度は中止となりました。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

問合せ先 市役所商工観光課
☎ 0587(32)1332



絶賛され、さまざまな料理に用いられています。また、毎年「そぶえイチヨウ黄葉まつり」を開催し、令和2年度には愛知県から「祖父江ぎんなん街道」として認定されるなど、ブランド強化に向けた取り組みが行われています。

金兵衛

祖父江町桜方に原木があり、この木からぎんなんを出荷した金兵衛氏が名前の由来と言われていました。枝を開くように広げて成長し、年を重ねるにつれて枝は垂れ下がったようになっています。
接木後、3〜4年で実がなるようになり、出荷も7月〜8月に行われるため「早出しぎんなん」と呼ばれています。園内の4種類のイチヨウの中で最も早く実ができて、長円形をしています。

接木後、5〜6年で実をつけ始め、8月中旬〜10月中旬にかけて熟していきます。実は大きく丸形をしており、粒の揃いもよく、もっちりとした食感が苦味も少なく味はとてもよいです。

久寿(久治)

祖父江町山崎に原木があり、久次郎氏が「久治」として出荷したのが始まりと言われています。実が大きく評判となったことから山崎地区で広がりました。
接木後、5〜6年で実をつけ始め、8月中旬〜10月中旬にかけて熟していきます。実は大きく丸形をしており、粒の揃いもよく、もっちりとした食感が苦味も少なく味はとてもよいです。

藤九郎

岐阜県瑞穂市から伝わった品種で、成長が早く、大きな木となります。6〜8年くらいで実をつけはじめ、8月下旬〜10月中旬にかけて熟していきます。
園内の4種類のイチヨウの中で一番大きな実をつけ、つやつやとして丸い形をしています。種の丸は薄くて割れやすく、中身は鮮やかな色で味もよいです。
保存性に優れ、4月頃まで出荷が行われます。

8月中旬〜10月中旬にかけて実が熟し、同じ長円形の金兵衛に比べて胴の張りがよくなります。見た目・味ともによく長く保存できるため、4月頃まで出荷できます。

栄神(栄信)

祖父江町神明津に原木があり、言い伝えでは、鳥がくわえて落としていった枝を、栄次郎氏が接木してできたことと伝承されています。栄次郎と神明津から一字を取り「栄神」と名付けられたと言われています。

イチヨウに囲まれた自然あふれる公園

祖父江ぎんなんパーク

問合せ先 市役所農務課 ☎ 0587(32)1352 ID 1007834



今年6月にオープンした祖父江ぎんなんパークは、「祖父江ぎんなん」のさらなるブランド力向上のため、代表4品種である「久寿」「栄神」「金兵衛」「藤九郎」の全てを園内で見ることができ、世代を問わず交流や健康づくりができる公園です。



所在地

稲沢市祖父江町山崎江代23-2 (名鉄尾西線山崎駅すぐ)

- ... トイレ
- ... 駐車場
- ... 駐輪場
- ... 水飲み場
- ... 休憩所



イチヨウ並木

▲黄葉の時期には、黄金色のトンネルに大変身!



展望台

▲デッキの上からイチヨウ園を一望できます

